

1. 自己紹介

- ・経済学部のホームページ内のアドレスは <http://www.eco.kindai.ac.jp/abiko/>
- ・あるホームページでは、次のように自己紹介しているので、ご参考まで。
「日本銀行で20年間働いた間、金融機関や企業の方々と意見交換する機会が多くありました。また、米国の大学院で経済学を学びました。こうした経験を活かして、金融業界などの実務家と経済学界の架け橋を目指しています。」

アドレスは <http://www.kawai-juku.ac.jp/prof/keizai/osaka.html>

- ・後期に商経学部生に「日本経済論」を講義する予定（昨年度は「金融論」も講義）

2. 自ら考える力を身につけよう

- ・社会では、**自ら考える力を持つ人**を求めている。

日本経済が元気だった頃は、企業自身がOJTで新人教育する余裕を持っていたため、採用に当たって、大学時代に学んだことは大して重視していなかった。

今では、リストラなどにより、企業にかつてのような余裕がなくなっている。

企業は、新卒採用を大幅に絞り込む中、自ら学ぶ力や考える力を持っている学生を採用したいと考えるようになっている。

企業が大卒採用を行うのも、大卒者のこうした力を期待しているため。大学に入って遊び癖がついただけで、こうした力を育成していない学生は必要とされない。

企業の考え方が分かれば、学生側でも事前に対応策を講じる必要がある。

- ・社会人として成長するためにも、**自ら考える力と気構え**が必要。

例えば、失敗したことからも学べる知恵が必要。実社会では、何度も同じ失敗を繰り返されると困る！！実際、「再発防止策」を企画・立案するには、明晰な頭脳が不可欠（失敗の原因を追究し、再発を防ぐための工夫を行わなければならない）。

- ・自ら考えるにあたっては、先人の知恵を借りることも大切（独力では、不必要に時間がかかったり、独善に陥ったりする危険がある）。そこで、**学びが必要**となる。中国の高名な思想家である孔子も学ぶことについて、次のように述べている。

「*学びて思わざれば則ち罔(くら)し、思いて学ばざれば則ち殆(あやう)し*」（論語）

この手順は、**まさに学問の手順と同じ**。先行研究を調べた上で、その問題点を検討し、自らの考えを加えていく必要がある。

卒業論文を書くときにも、この手順に則らなければならない。社会で報告書や企画書を書くときにも、この手順は十分に応用できる。

- ・大学時代に学問を学ぶ際には、断片的な知識を集めて満足するのではなく、**学ぶための手順や学ぶことの本質を是非とも身につけて欲しい**。

断片的な一夜漬けの知識では、忘れやすいほか、いざというときに応用が利かない。大きな流れを理解し、応用できるだけの力を身につけることが大切。

3. 自己責任と説明責任が求められる時代

- ・自ら考えたことを、自ら責任を負いながら実行したり、相手（お客や同僚・上司）に分かりやすく説明したりすることが大切な時代になっている。

折角いろいろと考えても、実行に移さなければ、社会では役に立たない。実行するためには、関係者に納得してもらう必要がある。

- ・私の専門分野である金融論の世界でも、**自己責任と説明責任**が求められるようになってきた。日本のバブル経済が崩壊して、不良債権が大量に発生したことの反省を受けたものである。以下では、上記の学ぶことが大切な一例として、自己責任と説明責任が必要になった時代的な背景を説明したい。

(不良債権問題の背景)

- ・バブルが崩壊するまでは、地価の上昇が続く中、**土地担保付き融資**が信用リスク管理の機能を果たしてきた。しかし、地価が下落に転じると、土地担保があっても「貸倒れ」が大量に発生するようになった。過去の成功体験が通用しなくなったのである。
- ・不良債権については、本来は会計上処理するべき。しかし、当初は担当者の保身や制度の未整備などから**不良債権処理が先送り**され、実態把握や対応が後手に回った。

(早期是正措置と自己査定制度)

- ・1998年4月に**早期是正措置**が導入され、銀行等に正しい自己資本比率を計算することが義務付けられた。その前提として、銀行等自身の自己査定により定期的・能動的に資産内容を吟味し、金融のプロがチェックすることで粉飾決算を廃する仕組みである。この結果、まず**銀行に自己責任と説明責任が求められる**ようになった。
- ・自己査定の手順は「金融検査マニュアル」により**体外公表されている**。まず債務者区分を判定し、担保や保証の状況に応じて個別の資産を分類する。借り手にとって、どの債務者区分と判定されるかが大変重要で、お金の借りやすさや金利が違ってくる。
- ・そこで、お金を借りる時、自らの債務者区分の向上を図ったり、信用度の高い経営再建計画を立てたりする**努力や工夫が必要**。土地担保には安住できない時代になった。

(リスク管理と孫子の兵法)

- ・リスク管理を行うときには、孫子の兵法にあるとおり、**己を知る努力が不可欠**。また、相手の状況についてもよく知り、適切な対応策を図る必要がある。**このリスク管理の考え方は、社会でも幅広く応用できるので、大学時代に必ず身につけるべき**。

4. 大学時代になすべきこと

出来るだけ多く、自ら考える訓練をして欲しい。

さらに幅広い経験を積んでおけば、社会に出てからも役に立つことが多い。

物事の学び方や情報の集め方を身につけて欲しい。

プレゼンテーション能力（口頭+文章の表現力）を高めて欲しい。

ゼミに真剣に参加したり、卒論を必死で書いたりすれば、こうした力は磨かれる。

- ・4年間を有効活用した人と、そうでない人の差は大きい。**有意義な大学生活を送ろう!**

以上